

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720351

研究課題名(和文) 碑刻史料の収集・分析による金元時代華北宗族研究

研究課題名(英文) Compiling Genealogy on Stone: The Evolution of Family Genealogy in North China during the Jin and Yuan Periods (1127-1368)

研究代表者

飯山 知保 (Iiyama, Tomoyasu)

早稲田大学・高等研究所・准教授

研究者番号：20549513

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)： 現地調査で収集した「先塋碑」と総称される、系譜が刻まれた碑刻や、その他の文集などに焦点を当て、12-14世紀の中国華北社会における、王朝の興亡や文化変容が、自らの出自や文化的背景に関する人々の歴史的記憶に及ぼす影響を、当時の基礎的な社会単位「宗族」(父系同族集団)の概念・形態の通時的变化から明らかにすることを目指した。

その結果、それが碑刻であれ文献であれ、一旦作成されたかかると資料が、時代ごとに異なる角度から解釈・再解釈され、それがさらなる自己認識や歴史記憶の変遷につながっていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)： Shedding light on long-forgotten steles, collectively "genealogical steles" (xi anyingbei), recently uncovered essays, and local gazetteers, this project illustrated the lasting impact of dynastic changes and subsequent social transition over the changing memory of ancestry, family history, and cultural identity in kinship organization in North China from the twelfth to the fourteenth century.

Once compiled, erected, and installed, literary collections and steles were expected to corroborate the claimed memories of the kin group. Even beyond the fall and rise of dynasties, they functioned as a focal point among kinsfolk who reinterpreted the contents of the materials from different angles in order to reshape their kin group better fitting in the new social, cultural, and political landscapes.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中国華北社会 文化変容 歴史的記憶 碑刻 文献史料 女真支配 モンゴル支配 宗族

## 1. 研究開始当初の背景

南方とは明らかに異なる社会構造をもっていた 12-15 世紀華北の史料には、親族組織を意味する「宗族」という語彙が頻出するが、その実態に関する実証的研究はほぼ皆無である。なぜなら、前近代中国の宗族に関連する先行研究は、系譜の伝承を目的とした族譜などの文献資料がほとんど伝存しない同時期の華北に注目してこなかったからである。結果的に、華北は南方と比較して「宗族形成の動きが微弱」な地域と認識されるのみであり、なぜ「微弱」であったのか、そもそも華北の人々にとって宗族とはどのような概念であったのか、といった問題に光が当たることはなかった。

しかし、申請者はこれまでの現地調査において、金元時代の「先塋碑」などの家系顕彰碑の裏面（碑陰）に未報告の系譜資料が刻まれている事例を数多く確認し、それらの収集・分析により、華北宗族の実像に対する十分な研究を行ないうることを確信するにいたった。

## 2. 研究の目的

本研究は、中国華北地域での現地調査を通じて碑刻史料の網羅的な収集・分析を行い、知見がほぼ皆無である前近代華北における「宗族」（宋代以降に形成された、父系血族を中心とする親族組織）の実像や、在地社会でのあり方などを解明する。従来、宋代以降の中国社会史研究は、江南地域を中心とした南方に集中してきた。当然、上記の宗族組織も、南方での実像のみに関心が集中し、それが「伝統中国」社会の象徴とみなされている。だが、同時期の、北方・西方からの外来民族の影響を多くうけた北方（華北）社会での「宗族」の実像については、漠然と南方の知見が敷衍されるのみであった。本研究ではその定説を具体的な新出史料により再検討する。

## 3. 研究の方法

本研究の骨子は、徹頭徹尾、中国華北での現地調査による史料収集とその分析である。「研究目的」で指摘したように、近年の未紹介の碑刻史料の刊行は、従来は史料的制約により詳細な考察が不可能とされてきた宋代以降の華北社会研究に、全く新たな展開をもたらしている。現地にはまだ未紹介の碑刻も数多いうえ、既発表の碑刻も、発表時にはその正面部分（碑陽）のみが公表されることがほとんどであり、往々にして重要な情報が刻まれるその他の面（碑陰・碑側など）は現地調査によってのみ確認・分析が可能である。本研究では中国の研究者の協力のもとで、かかる碑刻、とくに「宗支図」「宗譜図」などが刻まれる「先塋碑」などの家系顕彰碑を網羅的に調査し、史料群として収集する。そして、そこに見られる親族概念やその構築理論・社会的役割などを析出し、同時期の南方宗族と比較したうえで、華北の地域性・文化的特質を解明することを目指した。

## 4. 研究成果

現地調査で収集した「先塋碑」と総称される、系譜が刻まれた碑刻や、その他の文集などに焦点を当て、12-14 世紀の中国華北社会における、王朝の興亡や文化変容が、自らの出自や文化的背景に関する人々の歴史的記憶に及ぼす影響を、当時の基礎的な社会単位「宗族」（父系同族集団）の概念・形態の通時的变化から明らかにすることを目指した。

その結果、それが碑刻であれ文献であれ、一旦作成されたかかる資料が、時代ごとに異なる角度から解釈・再解釈され、それがさらなる自己認識や歴史記憶の変遷につながっていたことを明らかにした。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 5 件)

・飯山知保, 「「運使復齋郭公言行録」の編纂  
与其背景—蒙元時期吏員出身官僚的自我認同  
和晋升戰略」(中国語, 査読有), 魏崇武[編], 『元  
代文献与文化研究』, 第二輯, 2014年, 掲載決  
定。

・Tomoyasu Iiyama, “The Rise of the Song  
Sichuanese Literati Elites in Social and Cultural  
Contexts: A Review of *Managing the Territories  
from Afar: The Imperial State and Elites in*

*Sichuan, 755-1279*, by Song Chen,”(英語, 査  
読無) *Dissertation Reviews*, forthcoming.

・Tomoyasu Iiyama, “A Tangut Family’s  
Community Compact and Rituals: Aspects of the  
Society of North China, ca.1350 to the  
Present,”(英語, 査読有) *Asia Major*, 27-1, June,  
2014, paper accepted.

・飯山知保, 「金元時期北方社会演变与“先塋  
碑”出現的意義」(中国語, 査読有), 『中国史研  
究』, 2014年第1期, pp.1-18, 2014年3月.

・飯山知保, 「“孫公亮墓”碑刻群の研究  
—12-14世紀華北における“先塋碑”の出現と  
系譜伝承の変遷—」, 『アジア・アフリカ言  
語文化研究』, 第85号, pp.61-170, 2013年3  
月.

〔学会発表〕(計 9件)

・Tomoyasu Iiyama, “Struggling to Remain Small:  
The Transformation of Kinship Organization in  
North China, 1368-1890,” in Panel 198, “The  
Significance of the Seventeenth Century in Qing  
History: Re-examining the Formation of Qing  
Political, Economic, Social, and Legal Structures  
— *Sponsored by Society for Qing Studies*,” Annual  
Conference of the Association for Asian Studies  
2014, Philadelphia Marriott Downtown,  
Philadelphia (PA), USA (英語), March 29, 2014.

・飯山知保, 「12-19世紀華北水利史の動向に  
ついて」, WIASセミナーシリーズ【研究エリ  
ア 比較文明史】シンポジウム「アジアの水  
利問題と国家・社会 その4 水利から見た共同

体と国家」, 早稲田大学戸山キャンパス33号  
館16階第10会議室, 2013年10月21日.

・飯山知保, 「金代郊祀覃恩所代表的世宗“皇  
帝”形象之一端」, “宋代政治史研究の新視 野”  
国際学術研討会, 北京: 北京大学李兆基人文  
学苑3号楼109室(中華人民共和国, 中国語),  
2013年9月3日.

・飯山知保, 「10-15世紀華北における碑刻の  
興亡」(中国語), 平成25年度宋代史研究会夏合  
宿, 静岡県伊東市山喜旅館第一会議室, 2013  
年8月27日.

・Tomoyasu Iiyama, “Ancestry on Stone: The  
Interaction between Literati and Non-Literati  
Elites in Funerary Culture during the Jin-Yuan  
Period,” in Panel 60, “Localizing Ritual: The  
Roles of Local Elites in Northern China,  
1000-1400,” Annual Conference of the  
Association for Asian Studies 2013, Manchester  
Grand Hyatt, San Diego (CA), USA (英語),  
March 22, 2013.

・Tomoyasu Iiyama, “The Rise of “New Local  
Literati” in North China under Mongol Rule,” in  
the Panel “Evolution or Rupture? New  
Perspectives on Chinese Society under Mongol  
Rule,” The XIXth European Association for  
Chinese Studies Conference, Université Paris  
Diderot, Paris, France (英語), September 7, 2012.

・飯山知保, 「12-14世紀北方社会的世徳碑・  
先塋碑及其特点」, “新史料与新史学: 機遇与  
挑戰”学術研討会, 杭州: 浙江大学紫金港校区  
円正啓真酒店陰陽厅 (中華人民共和国, 中国  
語), 2012年8月26日.

・飯山知保, 「從紙到石頭: 10-14世紀北方系譜  
變遷」, “宋都開封与十至十三世紀中国史”国際  
学術研討会暨中国宋史研究会第十五届年会,  
開封: 河南大学人文社会学情報中心3階會議  
室 (中華人民共和国, 中国語), 2012年8月21日.

・Tomoyasu Iiyama, “Mongols, Confucians, and  
the Dragon King: The Ritual Transformation of a  
Non-Han Community in the Yuan, Ming, and

Qing.” Workshop “Political Strategies of Identity-Building in Non-Han Empires in China”: A Continuation of the Workshop “Ethnicity and Sinicization Reconsidered,” Ludwig-Maximilians-Universität München, Munich, Germany (英語), June 18, 2012.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

飯山 知保 (IIYAMA, Tomoyasu)  
早稲田大学・高等研究所・准教授  
研究者番号：20549513

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：